



次期全銀システムにおける国際 標準の採用

—銀行間支払指図へのISO20022XMLの導入—

平成21年7月8日

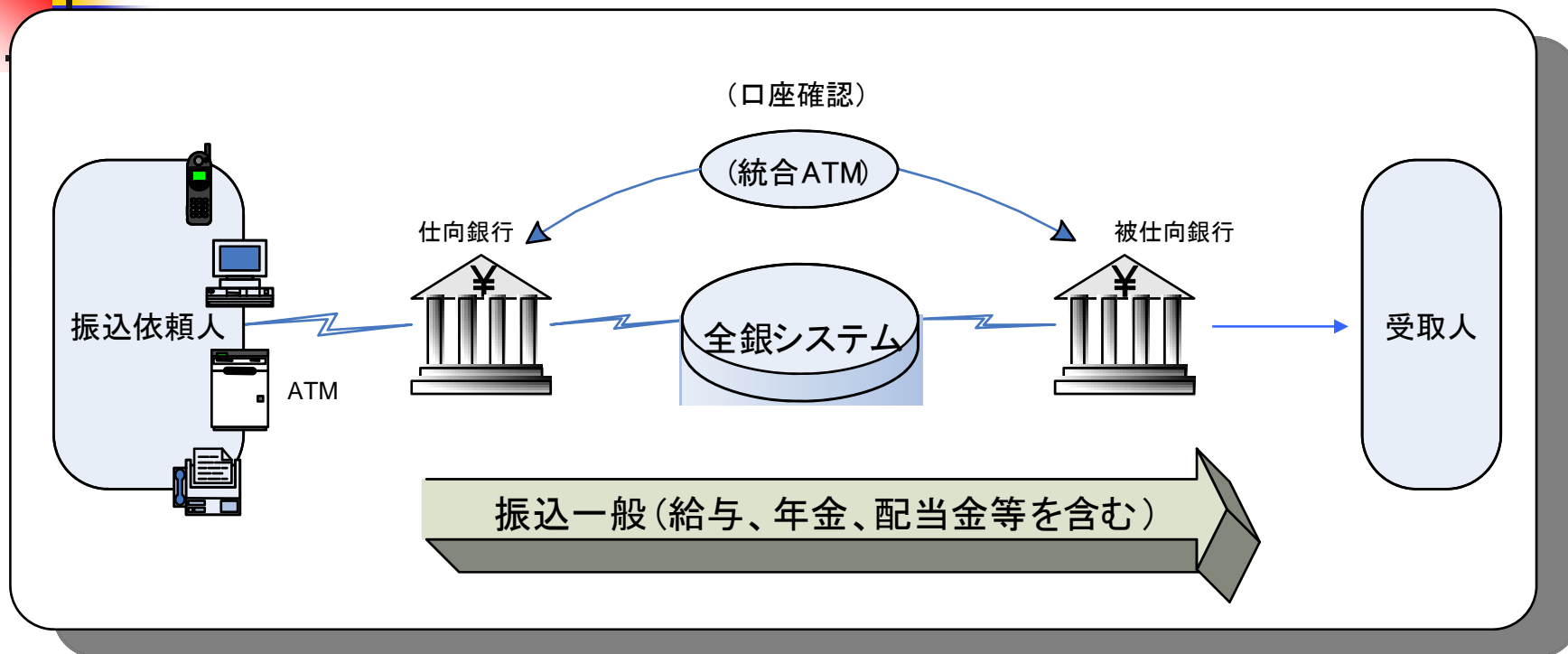
社団法人東京銀行協会
事務システム部 大坪直彰



全銀システムとは

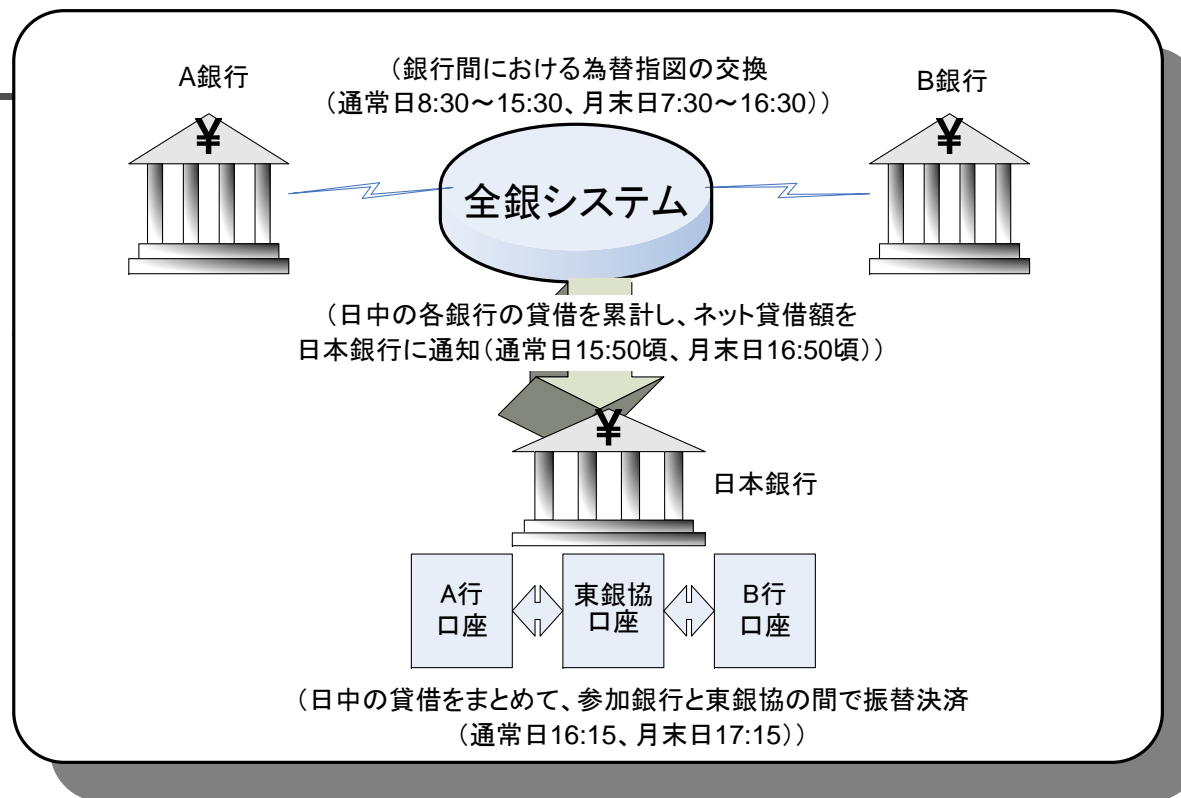
- 全国の金融機関間の内国為替取引をオンライン処理するシステム
 - 主として顧客間の資金決済を取扱う
 - 全国の銀行で受けた振込依頼を、振込先口座にリアルタイムで送信
 - 当日の夕方に、銀行間決済を日銀当預振替により完了
 - 社団法人東京銀行協会が運営

全銀システムを通じた為替の流れ



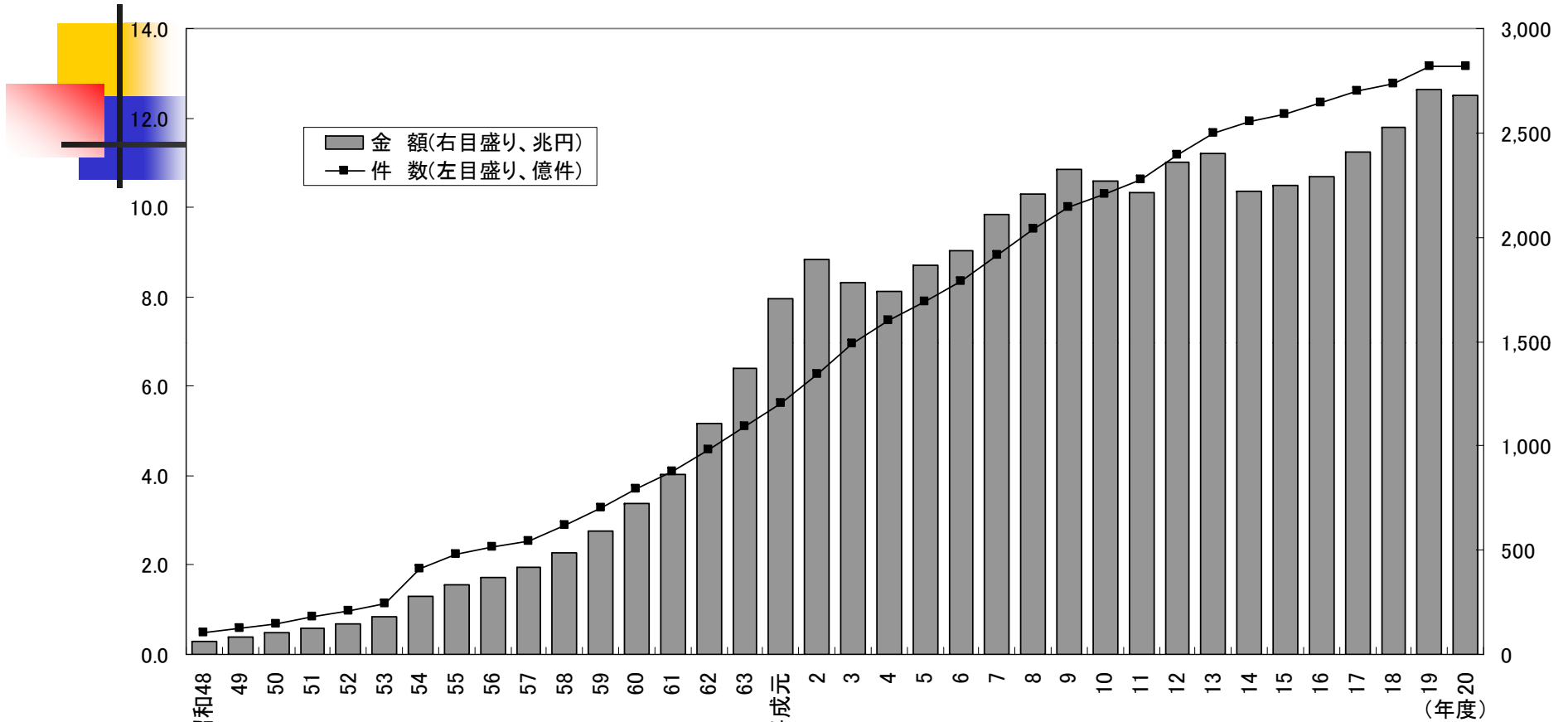
- ・ オンラインリアルタイムでの顧客口座間送金
- ・ 統合ATMシステム経由で事前に振込先口座を確認し、誤振込を防止
- ・ データ形式はテレ為替(単一電文形式)、MTデータ伝送(大量データ一括処理)の2種類

銀行間資金決済



- ⇒ 業務終了時間後に、各銀行が有する日中の累積貸借を、東銀協との間で振替決済。
- ⇒ 資金決済を確実にするために、①東銀協への担保提供、②不払い発生時の流動性供給制度を整備
- ⇒ 次期全銀システムにおいては1億円以上の取引は日銀RTGS決済

取扱規模の推移 ～テレ為替の件数・金額～



- 加盟銀行、店舗数 1,418金融機関、33,133店舗(平成21年3月末)
- センター処理能力 1,800万件/日(片系あたり)

平成20年度中の取扱い実績

	件数	金額
テレ為替	13億2,197万件 (1営業日平均540万件)	2,678兆円 (10.9兆円)
(振込)	10億7,658万件	2,548兆円
(給与・賞与)	2億 900万件	42兆円
MTデータ伝送	1億1,402万件 (1営業日平均47万件)	77兆円 (3,139億円)
(先日付振込)	837万件	10兆円
(給与・賞与)	3,918万件	8兆円
(年金振込)	430万件	0.9兆円
(株式配当金)	1,344万件	5兆円
(歳出金明細)	2,075万件	(52兆円)
(振込口座照会)	2,593万件	(-)



第6次全銀システムの開発

- 現行のシステムの終期は平成23年11月
- 平成19年度から第6次システムの検討に着手
- 平成21年4月：基本設計書（第1版）を加盟銀行に送付、開発着手



第6次全銀システムの特徴

① 国際化・標準化への対応

- ・ XMLによるデータ記述 (ISO20022) の導入
 - 電文フォーマットに、XMLフォーマットを追加。XMLは柔軟性の高いデータ記述方法であり、国際的な送金メッセージの次世代標準 (ISO20022) として採用されている。外部システムとの接続設計の柔軟性向上、国際標準技術の導入によるメリットが期待できる。
- ・ EDI情報の拡充
 - XMLフォーマットを使用することにより、EDI情報に使用可能な桁を20桁から140桁 (繰り返し使用可) に増加。より多くのEDI情報を電文に添付することが可能に。
- ・ 通信プロトコルにTCP/IPを採用、ネットワーク網にIP-VPNを採用
 - 技術面・製品供給面で安定したTCP/IPプロトコル、IP-VPNを採用することで、運用性向上とコスト削減の双方を実現。



第6次全銀システムの特徴(つづき)

② システムの柔軟性向上

- ・ SOAの導入
 - システムをSOA(Service Oriented Architecture)により業務単位に再構築、改修の影響を抑えて適時必要な開発を可能に。

③ 決済リスク削減・業務継続体制の強化

- ・ 大口取引に日銀ネット次世代RTGS決済を導入
 - 1億円以上の内国為替取引を日銀ネットに転送し、即時決済を実施、銀行間日中決済リスクを削減。
- ・ 新ファイル転送を導入
 - センター代行発信や未送信為替明細の転送等も想定した効率性の高い仕組みを導入、緊急時対応を効率化、柔軟化。
- ・ 試験環境の整備
 - 試験日程の柔軟化により開発工期の短縮が可能となり、加盟行の業務継続体制を強化。



XMLによるデータ記述の導入

- XML (Extensible Markup Language—拡張可能なマーク付け言語): 異システム間接続設計の柔軟性、センターシステムの開発・保守の生産性の向上等に貢献
- 全銀センターと加盟銀行の間で授受する電文について、現在の電文形式(固定長レコード形式)に加えて、XML形式のデータも使用できることとする。
- ISO20022に準拠



XMLによるデータ記述の導入(つづき)

- 希望する銀行は、全銀センターとの間で、XMLフォーマットによる電文の送受信を行うことが可能
(センターは、接続先毎にXML対応／従来電文の交換先の管理を行い、各々の希望に応じて、XML電文または従来電文を配信する)
- 全銀センターはXML、従来電文を受付け、相互変換
- 段階な移行が可能(JC分割機能を利用)



第6次全銀システムが採用するISO20022電文

pacs.008.001.01 (注) FIToFICustomerCreditTransfer (顧客送金)	振込(当日、先日付)、年 金・給付金等
pacs.009.001.01 (注) FinancialInstitutionCreditTransfer (銀行間送金)	銀行間付替等

(注) 2009年改訂版pacs.008.001.02、pacs009.001.02への対応を検討中。



EDI情報の拡充(XML電文の活用)

- (Electronic Data Interchange—電子データ交換)

お客様が伝票番号などを付記できるように、為替電文上に20文字まで記述できる仕様

⇒仕向銀行・被仕向銀行の双方がXML電文を採用している場合は、EDI情報欄を、140文字単位(送電文長に関する制限の範囲内で繰返し使用可)で拡張することができる



SWIFTとの連携

- SWIFT : ISO20022 RA(登録機関)
- 全銀システム電文とISO20022のGap分析を実施
- 実装上の留意点についてのアドバイス



今後の予定

- XML電文(確定版)の策定(22年3月)
- 試験スケジュールの検討(21年度)
- 試験要領、規則等検討(22年度)
- 総合運転試験実施(23年度)
- 稼動予定(23年11月)



おことわり

- 本日のご説明のうち、意見にわたる部分は、講演者の個人的見解であり、銀行協会の公式的な見解を示すものではありません。